

生活

家族  
働く

日月火

介護・シニア  
家計  
子育て  
衣食住

水木金土

健康

あすの紙面

生涯学習は生きがいづくり  
「地域デビュー」で対談

網膜色素変性症で見えづらい

紙上  
診察室

近藤 峰生さん



Q

十年前に網膜色素変性症と診断されました。「見えなくなるのが先か寿命が先か」と言われ、実際に少しずつ見えづらくなっています。見えなくなる時期を少しでも先にする方法はないでしょうか。

A

網膜色素変性症は、網膜の細胞が徐々に減っていく病気です。遺伝子の異常が原因で、暗い場所で見えにくい症状から始まり、視野が狭くなる、視力が低下するなどの症状が現れます。一般的に病気の進行は非常にゆっくりですので、心配しすぎないよ

うにしてください。  
難病に指定され、効果が証明された薬はありません。飲み薬が処方されることがありますが、細胞の代謝改善などが目的で、その効果も確実とは言えません。今は治療法に乏しい病気ですが、世界中で研究が行われ、人工多能性幹細胞(iPS細胞)を使った再生医療や人工網膜の活用など期待の持てる候補も出てきています。  
強い日光を浴びると良くないという学説もあり、外出時はサングラスなどの使用をお勧めします。残っている視機能を活用し、自立した生活を送れるよう支援する「ロービジョンケア」も有用です。具体的には、文字を画面に映す拡大読書器の使用などがあります。視力低下で歩行が困難になると、視覚障害者センターなどで白杖を使った歩行訓練も行われています。  
患者会の日本網膜色素変性症協会(本部・東京)では、各支部で相談や講演を行っており、訓練や支援などの情報を得ることができます。一人で不安を抱え込まず、主治医や、ロービジョンケアを行う病院などのスタッフに相談してみてください。  
(三重大病院眼科教授)

訓練や支援の情報得て

紙上診察室への投稿を募集します。〒住所、氏名、年齢、電話番号(紙面では匿名)を書き、右下のあて先へ。採用者には連絡します。

紙上診察室への投稿を募集します。〒住所、氏名、年齢、電話番号(紙面では匿名)を書き、右下のあて先へ。採用者には連絡します。